

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



23

中学校

2 3 中学校

その1 施設の概要

与謝野町の中学校は小学校同様に合併前に旧町で設置し、そのまま新町に引き継いでいますので、町立2校（加悦中学校、江陽中学校）と、宮津市と中学校組合を設立して運営している岩滝地域の橋立中学校の合計3校を運営しています。旧町地域に1校ずつ設置されていることになります。

「学校等の適正規模適正配置に関する基本方針」では、中学校の再編については、校区は当面の間現状維持としています。将来的には加悦中学校と江陽中学校を統合する可能性も示唆されています。

加悦中学校は老朽化が進んでおり、耐震性を診断した際に耐震基準を大幅に下回っていることがわかりました。耐震性を基準まで引き上げるためには、他の学校よりも多額の費用がかかることから、将来の安全性と「耐震補強工事⇒数年後建替え」という二重の財政負担も考慮し、与謝野町の学校施設では唯一建替えを行うことになりました。現在の位置に建替えることとし、平成26～29年度の工期で完成を目指しています。本白書ではそのことを前提としています。

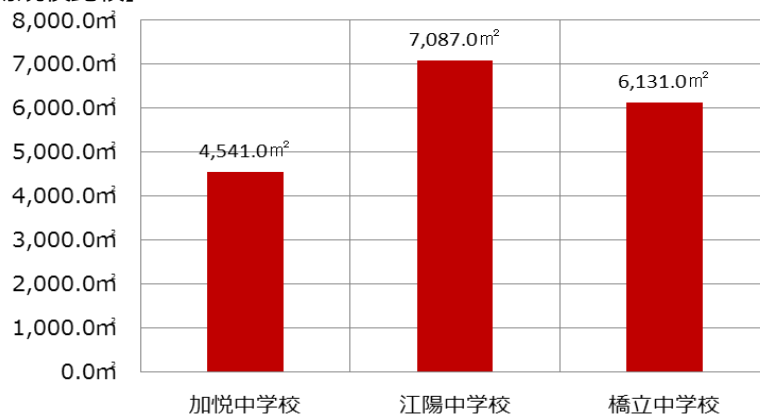
① 建物規模と位置

【中学校施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦中学校	加悦730番地	20,321.0㎡	4,541.0㎡	S41	直営
江陽中学校	四辻893番地	26,914.0㎡	7,087.0㎡	S61	直営
橋立中学校	岩滝2330番地	23,557.0㎡	6,131.0㎡	S56	直営
合計		70,792.0㎡	17,759.0㎡		

※建築年はメインの建物棟の建築年です。

【中学校の建物規模比較】



中学校の規模を延床面積で比較するとご覧のとおりとなっています。基本的には生徒数の規模（後述します）による差があると考えられます。

小学校の延床面積の平均が約3,500㎡なので、中学校の方が規模が大きいことがわかりま

【中学校位置図】



いずれの中学校も旧町に一つの中学校でしたので、人口の集中している地区に位置しています。地理的に見ますと加悦中学校は旧加悦町地域の中では中心とは言えず、与謝、滝地区などからはかなり遠く位置しています。

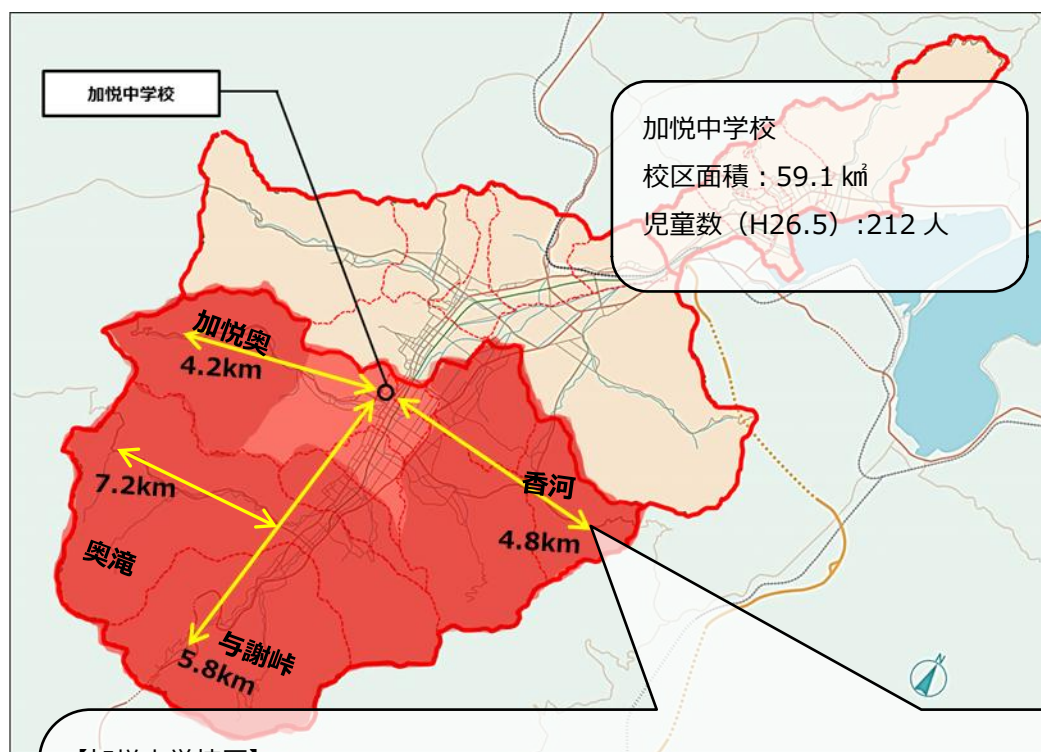
② 各中学校の概要

中学校ごとに成り立ちや校区面積・児童数などの概要を紹介します。校区面積には山林なども含まれています。図面上の黄色い矢印と距離は学校から最も遠くにある家や集落までの直線距離を示しています。

■加悦中学校

加悦中学校は昭和 22 年に加悦町、与謝村、桑飼村、三河内村の 1 町 3 村で中学校組合を作り「加悦谷第一中学校」として加悦、三河内小学校、加悦谷青年学校（現在は廃校）校舎の一部を使用して設立されました。現在の場所には昭和 23 年に安良丘（やすらおか）の整地作業が町・村民総出で行われ、昭和 24 年に移転しました。昭和 29 年に三河内村が合併して野田川町となったため、加悦町・野田川町組合立になりましたが、昭和 31 年に三河内の生徒が江陽中学校に編入されたため加悦町立に移行、現在の校区になりました。昭和 32 年に「加悦町立加悦中学校」と改称し、以後、町村合併等の歴史を刻みながら、68 年の歴史があります。

平成 26 年 10 月より校舎改築が始まり、新校舎は平成 28 年度完成予定です（外溝工事を平成 29 年度に実施予定）。



【加悦中学校区】

旧加悦町域全域が校区となっています。学校から遠方になる地区への直線距離はご覧のとおりとなっており、奥滝の端までは約 7.2 km の距離があります。

地図上の色の濃い部分は自転車通学範囲となっています。金屋区、与謝区、滝区、明石区、温江区、香河区と加悦奥区の一部の生徒は自転車通学です。



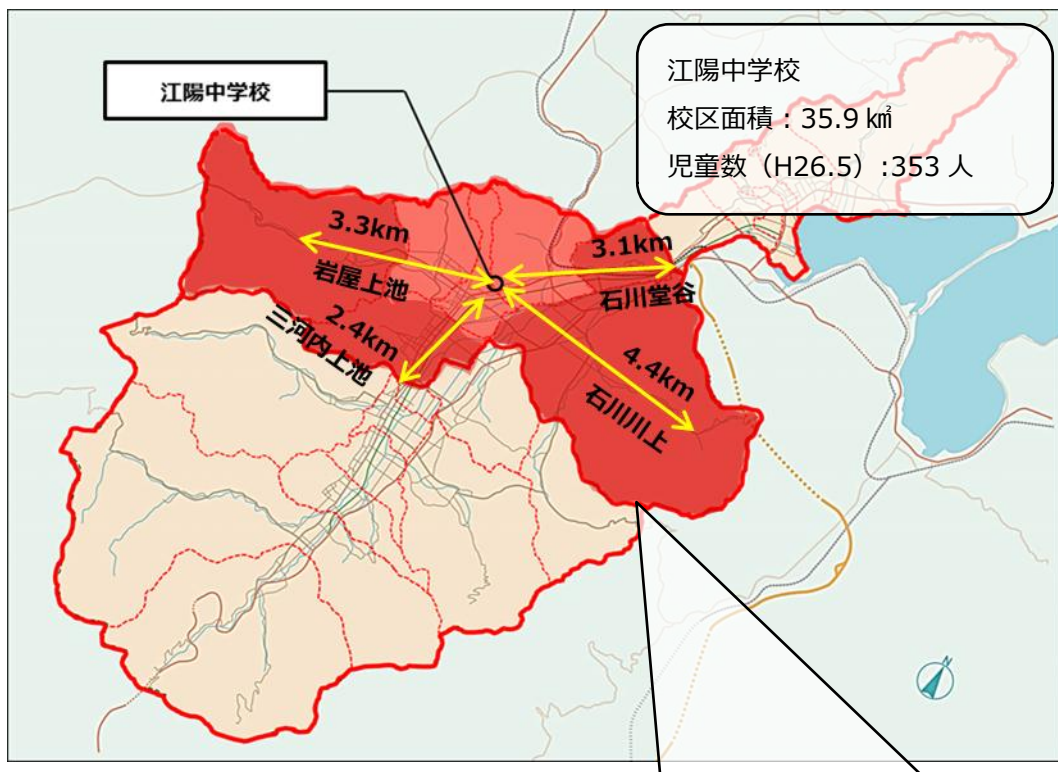
校舎棟



体育館

■江陽中学校

江陽中学校は昭和 22 年に市場村、岩屋村、山田村、石川村の 4 村で中学校組合を作り「加悦谷第二中学校」として市場小学校校舎の一部を使用して設立されました。現在の場所には昭和 25 年に村民総出で天築ヶ丘（てんぢがおか）の整地作業が行われ、昭和 26 年に移転し、この際に校名は多数の応募の中から「江陽中学校」に決定されました。大“江”山から昇る朝“陽”に輝く学校という意味です。昭和 29 年に三河内村も含めた 5 村合併により野田川町が誕生し野田川町立に移行、昭和 31 年に「加悦谷第一中学校」に通学していた三河内村の生徒を編入し現在の校区になりました。以後、町村合併等の歴史を刻みながら、68 年の歴史があります。



【江陽中学校区】

旧野田川町域全域が校区となっています。学校から遠方になる地区への直線距離はご覧のとおりとなっており、石川川上地区までは約 4.4 km の距離があります。地理的にも概ね校区の中心に位置すると言えます。

地図上の色の濃い部分は自転車通学範囲となっています。三河内区、岩屋区、下山田区、石川区の生徒は自転車通学です。



校舎棟

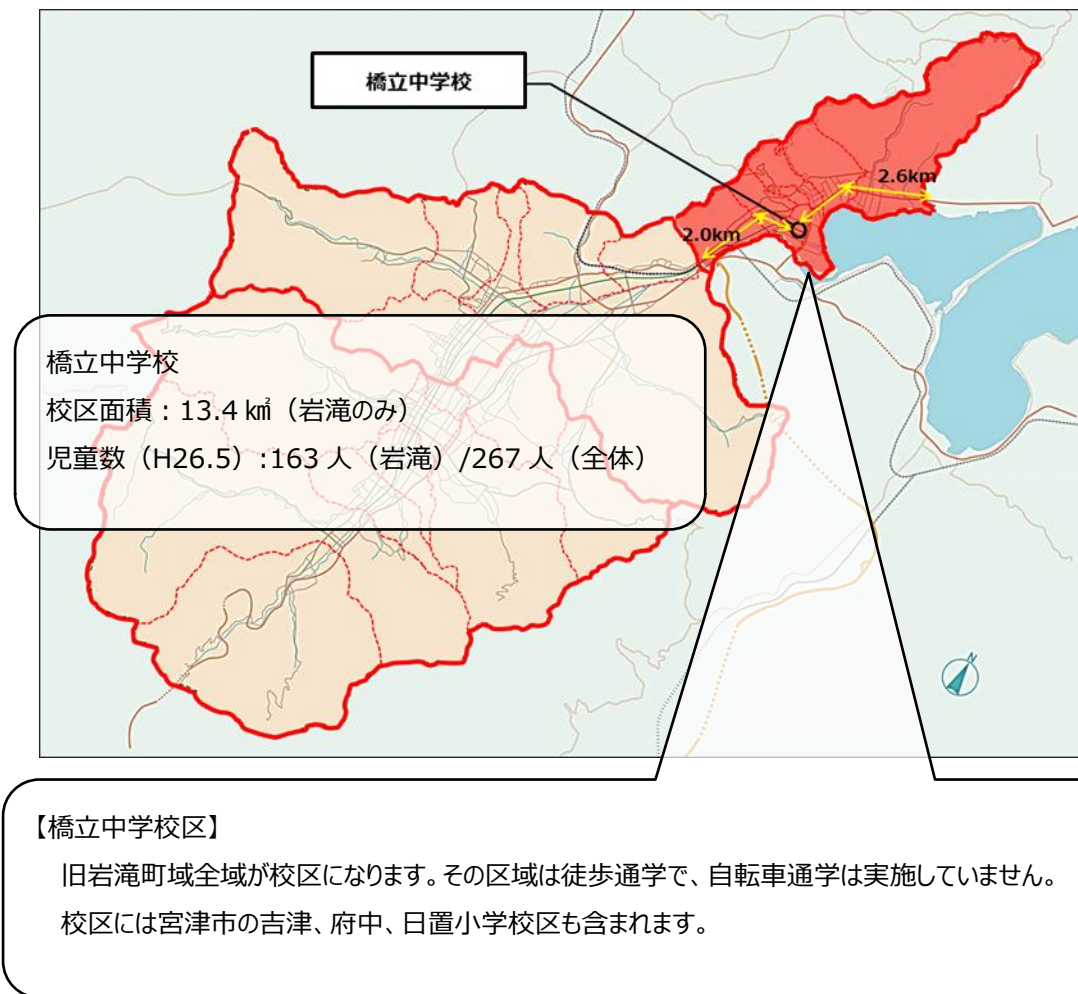


体育館

■ 橋立中学校

橋立中学校は昭和 22 年に岩滝町、府中村、吉津村の 1 町 2 村で中学校組合を作り「橋立中学校」として岩滝小学校に併設する形で設立しました。現在の場所には昭和 24 年に移転し、昭和 56 年に現在の校舎が完成しました。昭和 29 年に宮津市の成立により岩滝町宮津市中学校組合立に移行し、平成 18 年の与謝野町誕生とともに与謝野町宮津市中学校組合立となり、68 年の歴史があります。

現在の校区は、与謝野町の旧岩滝町、宮津市の府中、吉津、日置地区の生徒が通っており、全校生徒の内、与謝野町在住生徒が約 6 割、宮津市在住生徒が約 4 割を占めます。



校舎棟

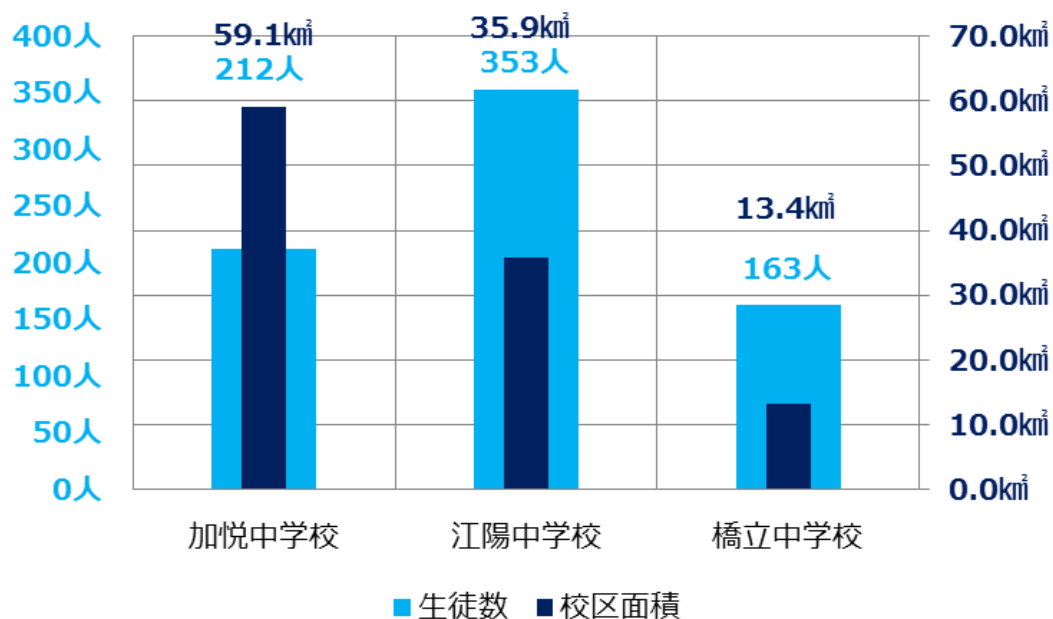


体育館

③ 校区面積比較

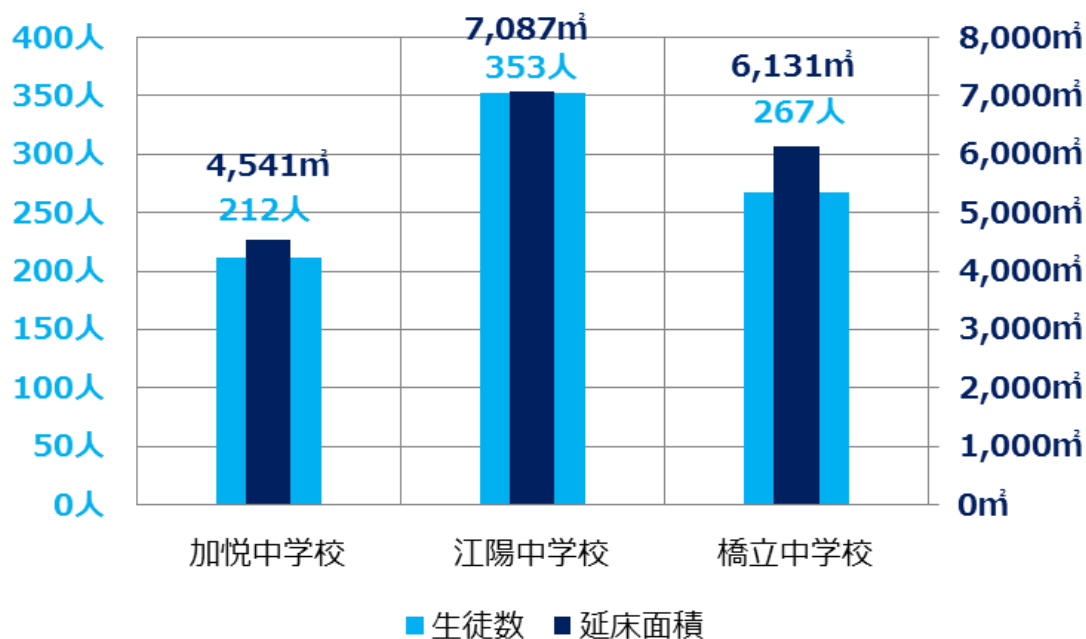
校区面積を比較すると加悦中学校の校区面積が大きいことが分かります。山林が多いこともあり、学校から最も遠い家では約 7.2km もあります。加悦中学校は校区面積が一番大きいですが生徒数は一番少なく、校区面積が大きいことが児童数の大小に繋がるわけではないことがわかります。

※グラフ中の橋立中学校の生徒数と校区面積は与謝野町分のみです。



④ 校舎の規模と生徒数の比較

生徒数と校舎の規模（延床面積）を比較した場合、概ね生徒数の大小と一致します。当初から地域の生徒数に応じた整備を行ってきたことがわかります。ただし校舎内の空きスペースが増えてきているかどうかは教室稼働率などで判断するほうが妥当です。



中学校の生徒数は全体的に減少しており、1 学年 4～5 クラスで授業を行っていましたが、近年では 1 学年 3 クラスで授業を行っています。

校舎の規模と生徒数を比較してみます。生徒一人あたりの延床面積を見てみると以下ようになります。

施設名	生徒 一人あたりの㎡数					H50-H26 の比較
	S50	S60	H7	H17	H26	
加悦中学校	9.7㎡	10.3㎡	14.6㎡	20.5㎡	21.4㎡	2.2倍
江陽中学校	11.6㎡	11.0㎡	16.8㎡	17.8㎡	20.1㎡	1.7倍
橋立中学校	9.1㎡	9.9㎡	15.0㎡	17.2㎡	22.2㎡	2.4倍
合計	30.4㎡	31.2㎡	46.4㎡	55.5㎡	63.7㎡	2.1倍

平成 26 年度の生徒数で、生徒一人当たりの延床面積を算出しました。概ね 20 ㎡となっており、学校ごとにばらつきはないように見えます。昭和 50 年度からの推移もお示します。あくまで延床面積が変わっていないという前提ですが、年度を追うごとに生徒一人当たりの延床面積は増加しています。仮に昭和 50 年度を適正規模とした場合、平成 26 年度との比較において、倍増以内となっているのは江陽中学校のみです。小学校とあまり変わらない状況にあります。

その 2 施設の状況

加悦中学校を除く 2 校は昭和 60 年代に建設され、耐震診断後に耐震補強工事が施されています。

一方で加悦中学校は昭和 41 年に建設されてから約 50 年が経過している状況であり、平成 18 年度に実施した耐震診断では基準を大きく下回る耐震性を示しており、平成 26～29 年度にかけて建替え工事を行うこととしています。

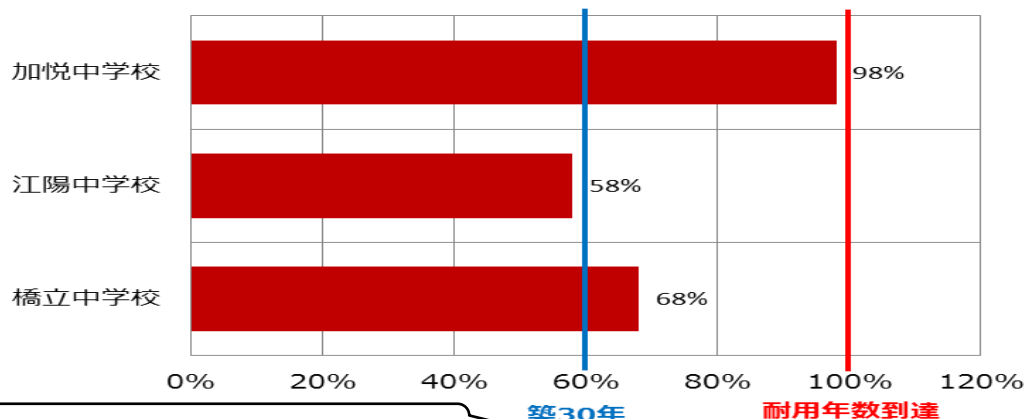
① 老朽化の状況

【中学校老朽化一覧】

施設名（延床面積）	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦中学校	鉄筋コンクリート造3階建て	S 41	H 28	98%	無
江陽中学校	鉄筋コンクリート造3階建て	S 61	H 48	58%	有
橋立中学校	鉄筋コンクリート造3階建て	S 56	H 43	68%	有

※老朽化率は 経過年数/耐用年数 で算出しています。

※鉄筋コンクリート造の耐用年数を 50 年で想定しています。



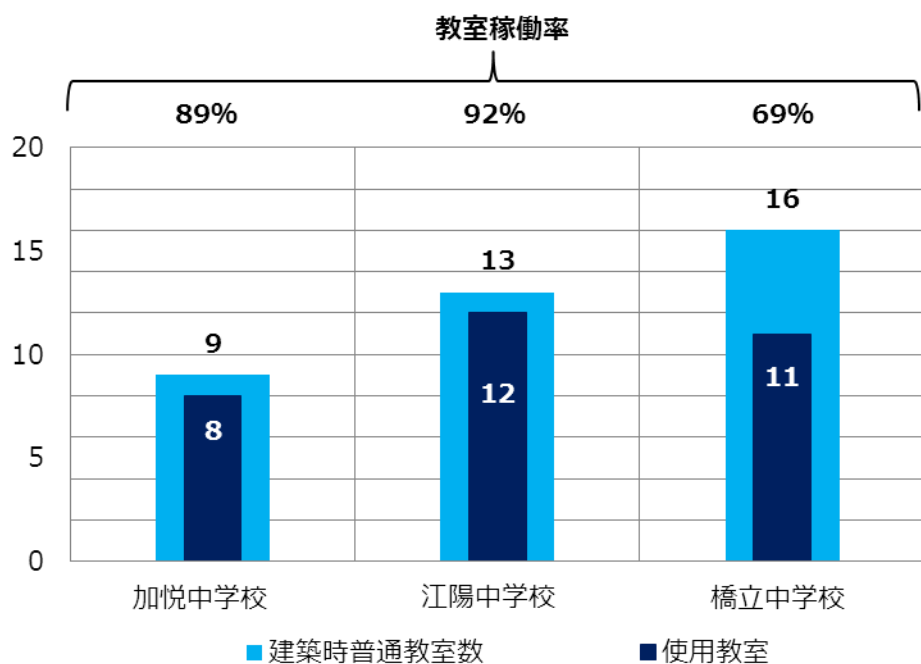
カテゴリー内の建物の構造が全て同じ場合、表記します。

加悦中学校の耐用年数が目前に迫っており、現在建替え工事を実施しています。ついで橋立中学校が築 34 年経過、江陽中学校は 29 年経過しています。

② 教室数

加悦中学校は 1 学年 2～3 クラスの 7 クラス、江陽中学校は 1 学年 3～4 クラスの 10 クラス、橋立中学校は 1 学年 2～3 クラスになっており、当初想定よりクラス数が減少しています。特に橋立中学校の稼働率が若干低くなってきています。生徒数の推移も見る必要があります。

施設名	建築時 普通教室数 (①)	クラス数			空き普通教室 (①－②)	教室稼働率
		普通学級	特別支援学級	計 (②)		
加悦中学校	9	7	1	8	1	89%
江陽中学校	13	10	2	12	1	92%
橋立中学校	16	9	2	11	5	69%
合計	38	26	5	31	7	82%



③ バリアフリー化状況

各中学校のバリアフリー化の状況はご覧のとおりです。特段バリアフリーに配慮した構造とは言えません。

【中学校バリアフリー化状況】

学校名	バリアフリー設備						
	多目的 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
						エレベーター	階段昇降機
加悦中学校	○	△	-	-	-	-	-
江陽中学校	-	-	-	-	-	-	-
橋立中学校	○	△	-	-	-	-	-

④ 防災状況

各中学校とも避難所に指定されています。加悦中学校は一部が急傾斜地の特別警戒区域にあります。

【中学校施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦中学校	○	○	—	特別警戒区域	警戒区域内
江陽中学校	○	○	—	—	警戒区域内
橋立中学校	○	○	0.5m～3.0m	—	警戒区域内

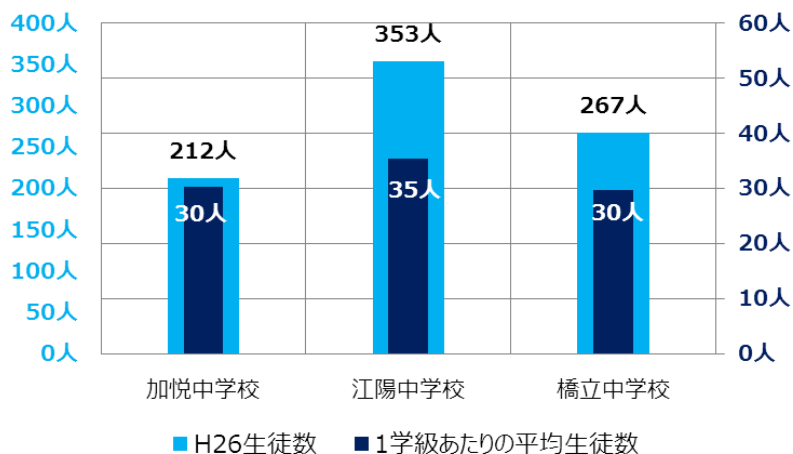
その3 施設の利用状況

① 生徒数

与謝野町の中学校生徒数は平成 26 年度で 832 人です。各中学校の生徒数の内訳は以下のとおりとなっています。1 学級あたりの生徒数はどの中学校も 30 人を超えています。

【中学校生徒数・1 学級あたりの平均生徒数】

施設名	H26生徒数	普通学級数	1学級あたりの平均生徒数
加悦中学校	212人	7	30人
江陽中学校	353人	10	35人
橋立中学校	267人	9	30人
合計	832人	26	32人



② 生徒数の推移

昭和 30 年度からの児童数の推移は下表のとおりとなっています。昭和 30 年度と平成 26 年度の児童数を比較した場合、全体で 62%も減少しています。加悦中学校の減少が激しく見えますが、昭和 31 年に三河内地区の生徒が江陽中学校に編入されたことも影響しています。むしろ橋立中学校の減少が大きい印象です。

【中学校生徒数推移表】

※表中赤字は生徒数が最も多かった年度

年度	中学校			全体生徒数
	加悦中学校	江陽中学校	橋立中学校	
S30	812人	566人	795人	2,173人
S35	619人	688人	710人	2,017人
S40	603人	654人	702人	1,959人
S45	489人	608人	603人	1,700人
S50	467人	613人	671人	1,751人
S55	441人	596人	587人	1,624人
S60	441人	644人	622人	1,707人
H2	384人	523人	486人	1,393人
H7	312人	421人	410人	1,143人
H12	300人	349人	345人	994人
H17	221人	398人	356人	975人
H18	209人	401人	326人	936人
H19	207人	392人	327人	926人
H20	222人	361人	306人	889人
H21	226人	376人	292人	894人
H22	218人	380人	289人	887人
H23	219人	378人	309人	906人
H24	218人	366人	311人	895人
H25	237人	371人	306人	914人
H26	212人	353人	267人	832人

-600人 -335人 -528人 -1,341人

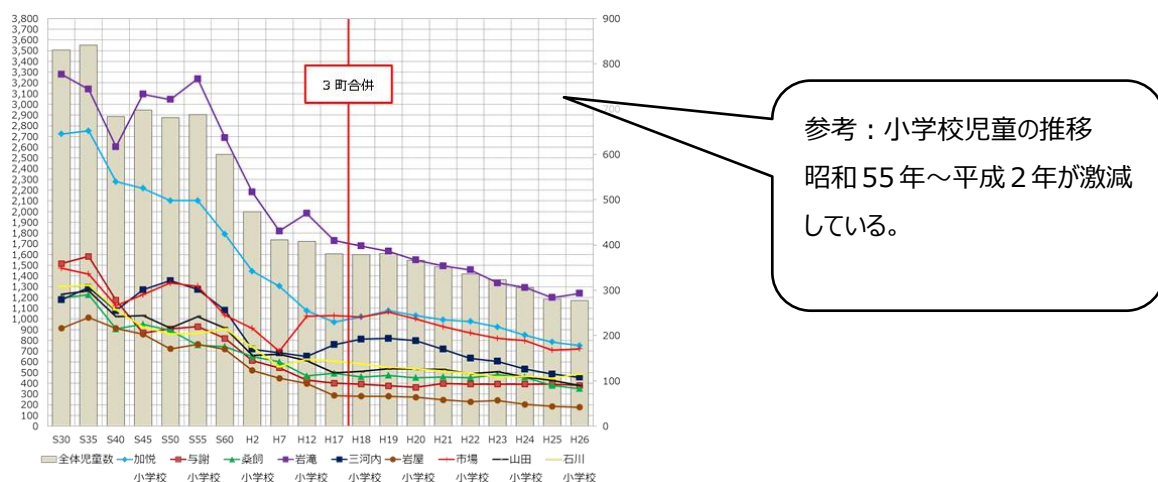
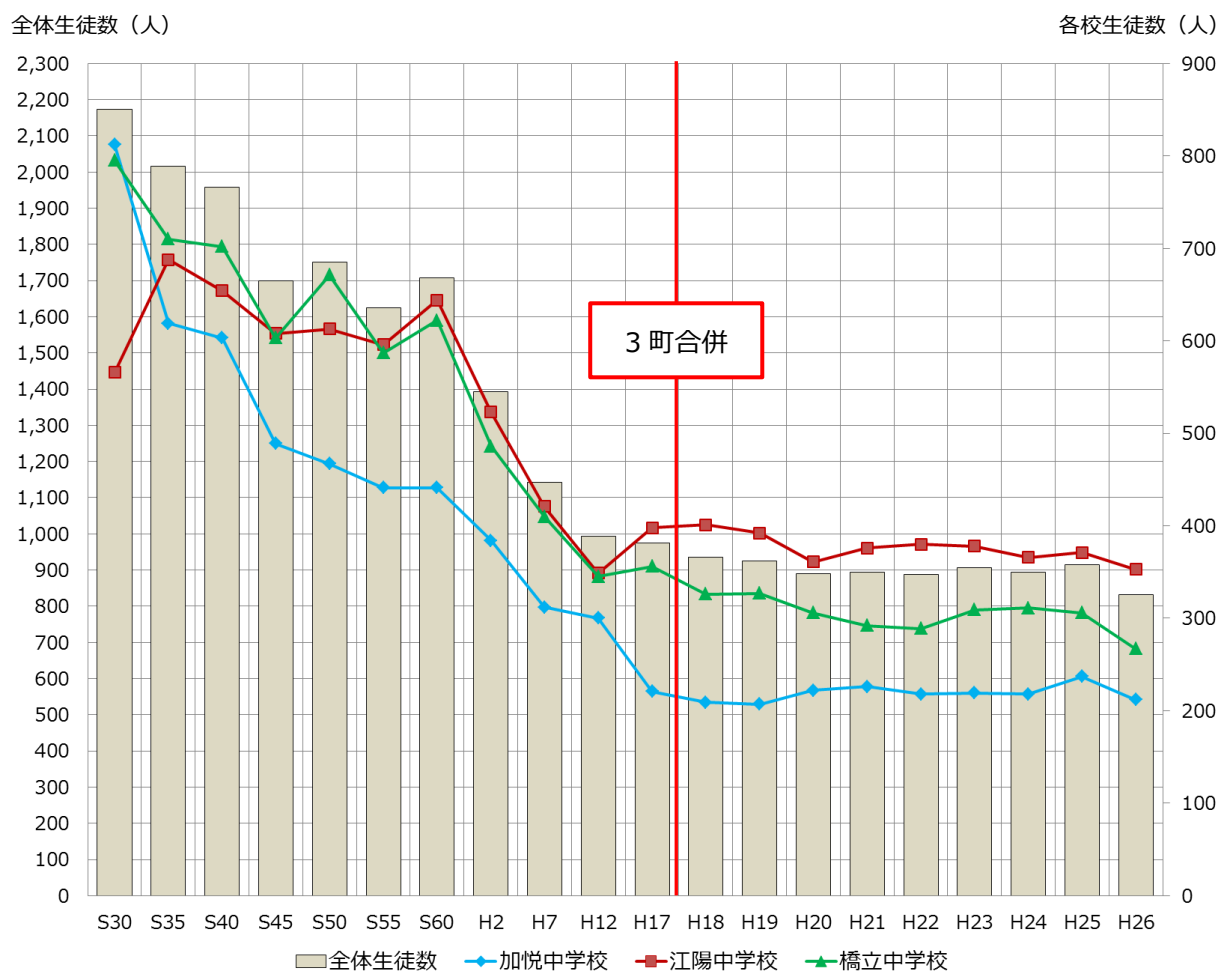
最も生徒数が多い年度からの減少数

-74% -49% -66% -62%

最も生徒数が多い年度からの減少率

中学校の生徒数推移をグラフに反映させてみると、平成に入ってから減少が大きくなっています。小学校も昭和 55 年～平成 2 年の 10 年間の減少が大きく、この 10 年間の児童・生徒数の減少が大きかったことがわかります。

【中学校生徒数推移表】



③ 体育館・グラウンドナイターの利用

【平成 25 年度中学校体育設備利用状況】

施設名	体育館利用件数	グラウンド ナイター利用回数
加悦中学校	73件	87件
江陽中学校	189件	-
橋立中学校	116件	-
合計	378件	87件

※加悦中学校ナイターは加悦小中グラウンド分
加悦小学校と同件数計上

各小学校の設備には地域住民が利用する社会体育施設としての側面もあります。体育館利用数は夜間のものです。他の社会体育施設ほどではありませんが、どの中学校でも地域の方が利用する頻度が多いと言えます。

その5 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の中学校施設に係る年間コストは以下のとおりです。教職員人件費は京都府負担です。

【中学校施設管理・運営コスト一覧】

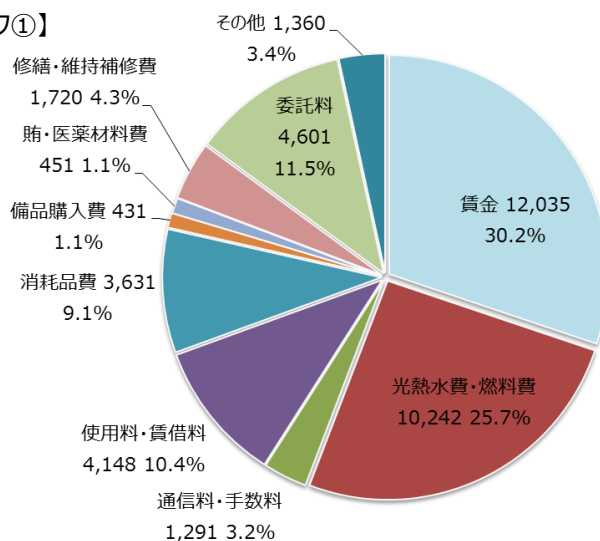
単位：千円

項目	加悦中学校	江陽中学校	橋立中学校	合計
賃金	5,528	5,236	1,271	12,035
光熱水費・燃料費	3,324	4,543	2,375	10,242
通信料・手数料	430	522	339	1,291
使用料・賃借料	1,490	1,543	1,115	4,148
消耗品費	1,145	1,668	818	3,631
備品購入費	120	94	217	431
賄・医薬材料費	135	176	140	451
修繕・維持補修費	486	625	609	1,720
委託料	1,642	2,280	679	4,601
指定管理料	0	0	0	0
その他	380	438	542	1,360
合計	14,680	17,125	8,105	39,910

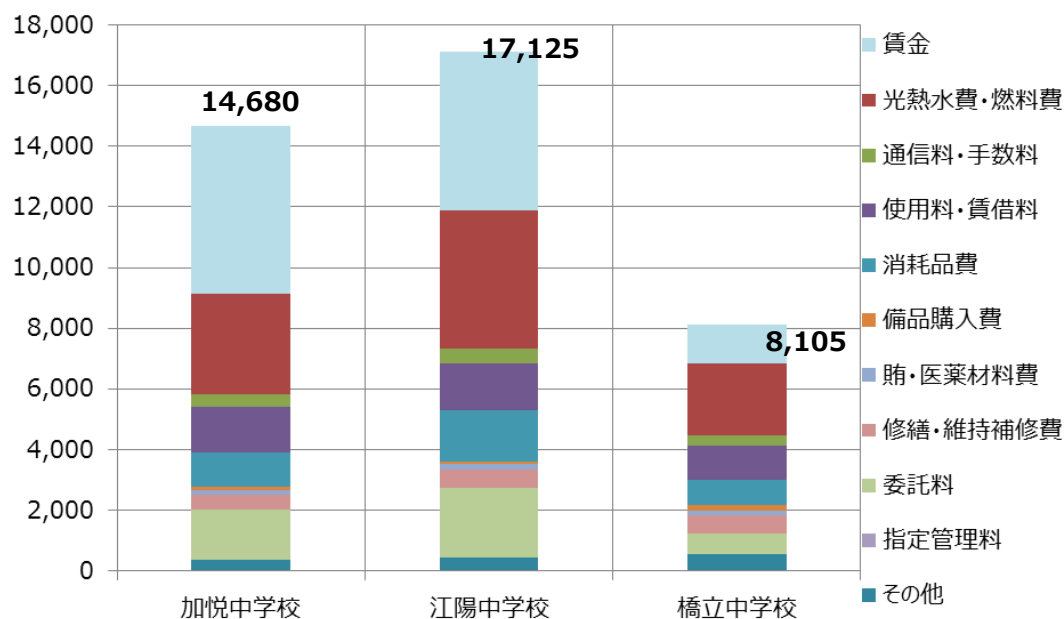
※金額は平成24年度、25年度の実績額の平均です。

※橋立中学校のコストには宮津市との按分率60%を乗じ、与謝野町分を示しています。

【中学校管理・運営コスト内訳グラフ①】

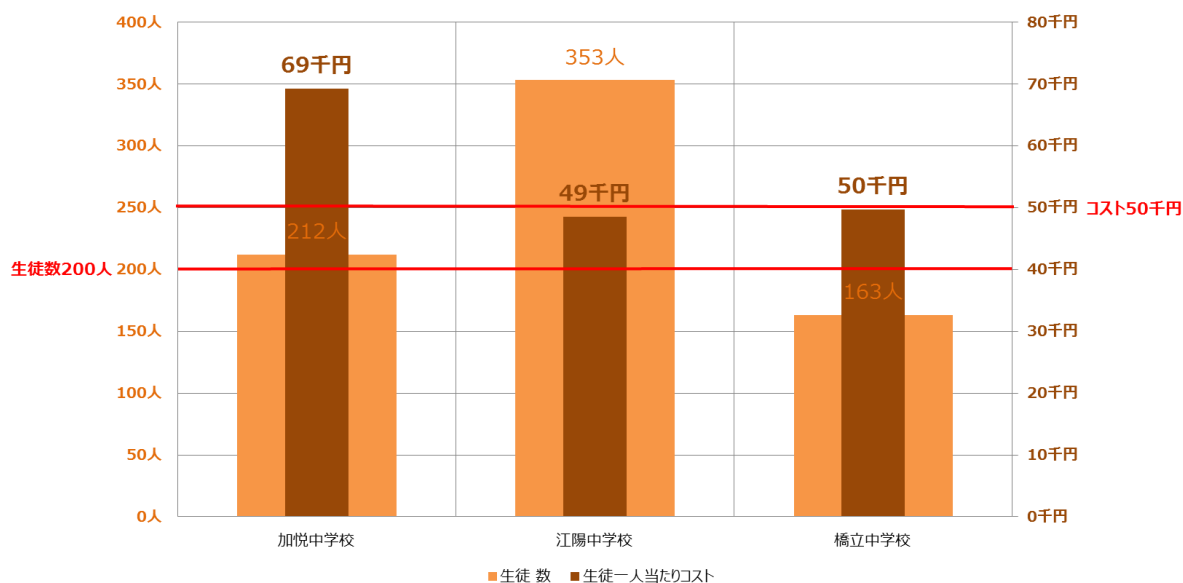


【中学校管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



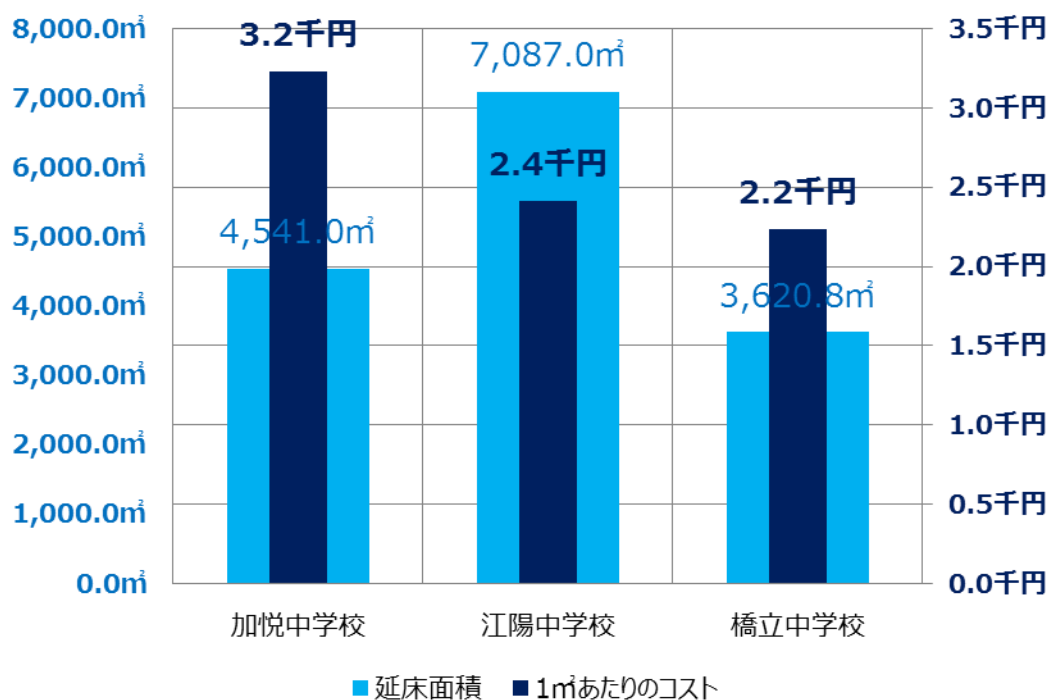
各学校のコスト状況を比較すると、江陽学校に係る経費が約 17,125 千円と多くなっています。当然生徒数や施設の規模が大きいことが考えられます。橋立中学校のコストは与謝野町の生徒数で按分しています。与謝野町の生徒 163 人に対するコストです。

【生徒一人あたりの管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



児童一人当たりに対して 10 万円前後のコストがかかっていた小学校とは違い、中学校は生徒一人当たり 5 万円程度のコストとなっています。加悦中学校が他校に比べてやや高い印象がありますが、比較対象が多くないので単純に生徒数がやや少ないことが理由になると考えられます。

【1㎡あたりの管理・運営コスト内訳グラフ】



延床面積での比較については、加悦中学校が3.2千円と少し高くなっていますが、全体的に3千円だった小学校よりは低くなっています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

- ☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。
- ☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。
- ☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達年に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

- 建替えコスト… 33万円/㎡ （解体費含む：学校教育系施設）
- 解体コスト… 3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【中学校施設整備等コスト一覧】

(単位：千円)

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
加悦中学校	S41	47年	117,798	H28	2,352,562	参考	136,230
江陽中学校	S61	47年	929,285	H48	2,338,710	参考	212,610
橋立中学校	S56	47年	820,930	H43	1,213,938	参考	110,358
				合計	5,905,210	合計	459,198

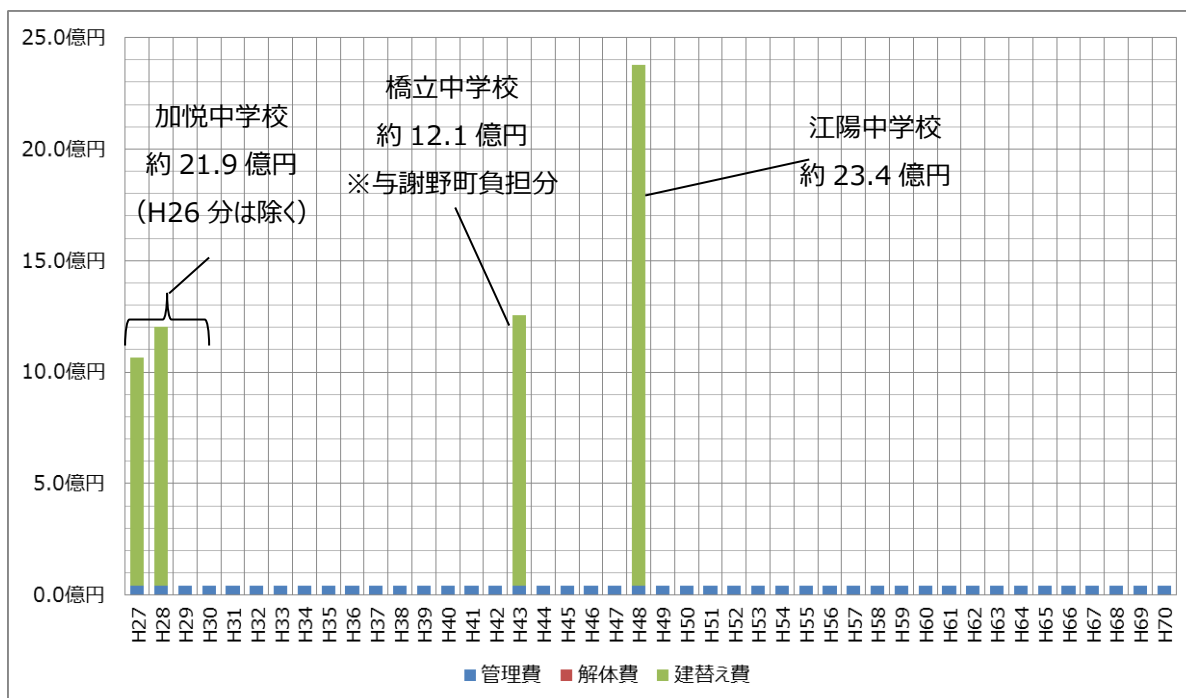
※加悦中学校はH26～28の3年の事業費です。

※解体コストは参考で明示

※橋立中学校の建替えコストは総額2,023,230千円に与謝野町の負担率60%を乗じて求めています。
(解体コストは183,930千円に60%を乗じています)

管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

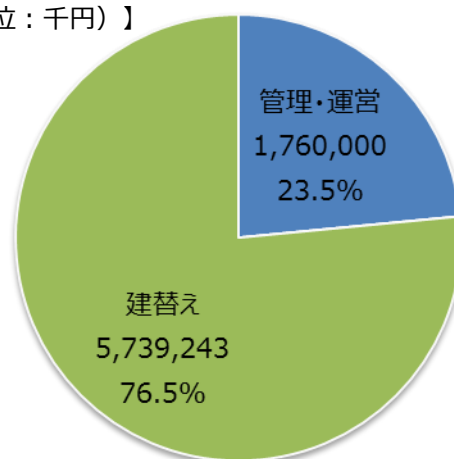
【中学校施設将来コスト推移表】



コスト総額約 75 億円（整備 57.4 億円、解体費 0 億円、管理・運営 17.6 億円）

中学校がこのまま3校とも運営された場合、すでに着工している加悦中学校の建替え工事が平成28年度に終われば、次に耐用年数を迎える橋立中学までは15年の期間が開きます。江陽中学はさらにその5年後に耐用年数を迎えることになり、全てを建替えれば約75億円のコストがかかります。どこかのタイミングで3校⇒2校と統合が進めば、約20億円の工事費が不要になる可能性があります。

【中学校将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

中学校の利用状況を示す生徒数は、当然のことながら小学校と同様に減少しています。

●老朽化状況

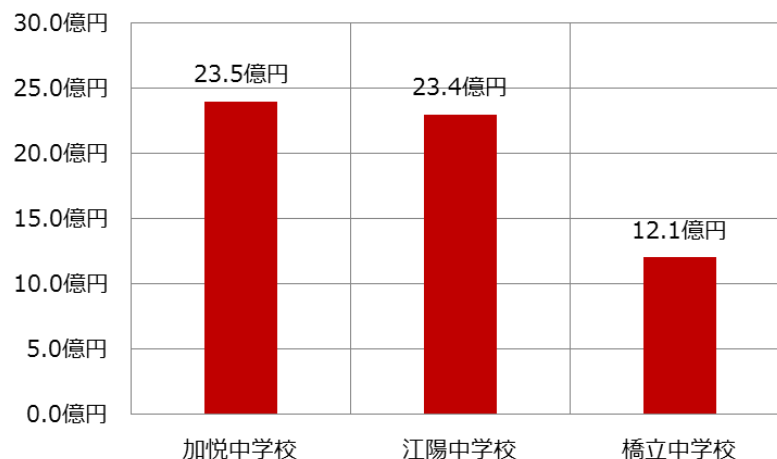
老朽化については、加悦中学校が著しく老朽化していますが、すでに建替えという対策が取られています。他の中学校の耐用年数到達には15年程度の期間があります。

●コスト状況

管理・運営コストについては、生徒数や延床面積（建物規模）によってあまり大きく左右されるものではないことから、現状のまま推移することになります。仮に3校⇒2校の再編となれば年間で1千万円程度抑制できると見込まれます。

次に今後の整備にかかるコストですが、中学校は現状の3校を維持することになりますので、コスト状況の項目で述べたように、耐用年数到達時に全て建替えるとするなら総額で59億円（既に実施中の加悦中学校の整備費含む）のコストがかかります。ただし、今後の生徒数の推移を考慮すれば、いずれかの時期に中学校を再編することとなり、1校分の整備費が削減できる可能性はあります。

【各中学校建替コストグラフ】



●現状のまとめ

中学校の現状としては、課題であった加悦中学校の老朽化・耐震化問題が建替えという方針で既に着手されたこともあり、当面は建物の物理的不安は解消されたように思われます。しかしながら、今回の整備で約 24 億円もの莫大な経費をかけることから、その投資を今後の行財政運営を行っていく上で無駄にしないように努めていく必要があります。

2 今後の展望

今後の展望については、特に教育委員会方針となっている「加悦中学校と江陽中学校の統合」の可能性に注視してみます。橋立中学校は宮津市との関係性もあり今回は考察しません。

●加悦中学校・江陽中学校の生徒数の推計

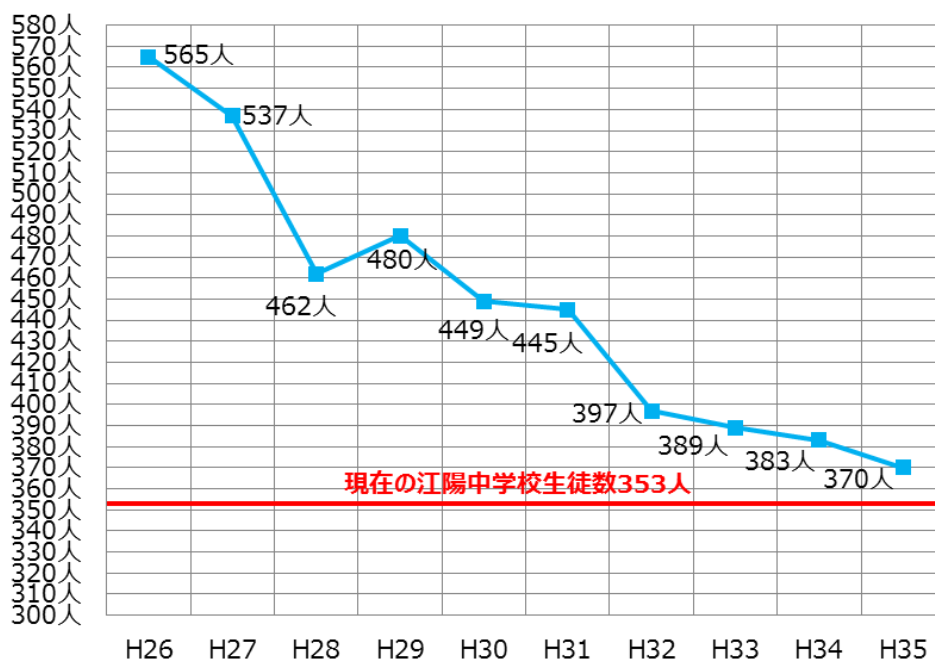
加悦中学校・江陽中学校の今後の生徒数の推移はどうなっていくのでしょうか？子ども・子育て会議の資料である小学校の児童数推計を基に単純に推計してみました。

加悦中学校と江陽中学校は、その成り立ちにおいて、加悦中学校が「加悦谷第一中学校」、江陽中学校が「加悦谷第二中学校」であることから、設立当初から地域的な結びつきが強いと考えられます。その2校の生徒数合計の推移は以下のとおりです。

【加悦中学校・江陽中学校の生徒数推計】

中学校	年度									
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
加悦中学校	212人	212人	187人	203人	185人	180人	148人	146人	147人	148人
江陽中学校	353人	325人	275人	277人	264人	265人	249人	243人	236人	222人
2校合計	565人	537人	462人	480人	449人	445人	397人	389人	383人	370人

※27年度生徒数も推計です。



平成 26 年度の中学 2 年生が 2 校合計で 214 人と多く、その 2 年生が卒業したあとの平成 28 年度に大きく生徒数が減少します。その後やや持ち直すものの、平成 26 年度時点の小学 1 年生が入学する平成 32 年度には 2 校合計で 400 人を下回り、平成 35 年度には 370 人と平成 26 年度時点の江陽中学校 1 校の生徒数 353 人に近い水準まで生徒数が減少します。

平成 35 年度の 2 校合計の学年別生徒数

○1 年生 : 110 人

3.14 学級

○2 年生 : 129 人

1 学級 35 人として

3.69 学級

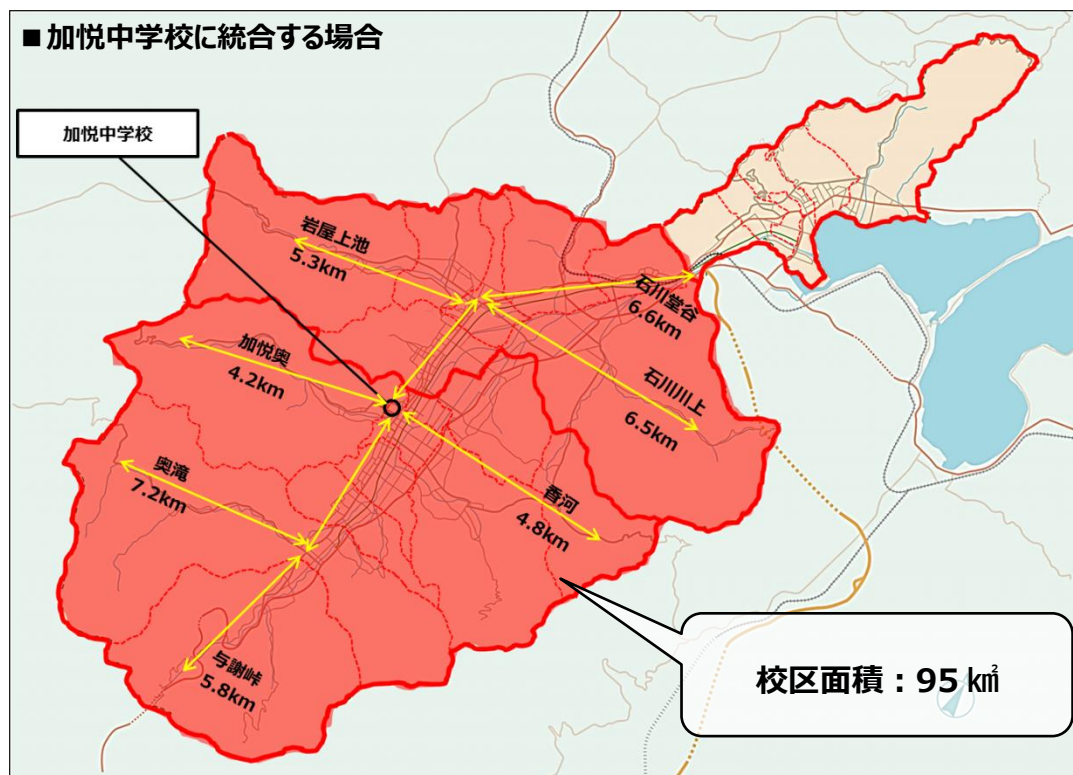
○3 年生 : 131 人

3.74 学級

1 学年 3～4 学級ほどになり、物理的に統合可能な水準に近くなります。

●加悦中学校・江陽中学校の校区

次に校区面積や通学距離を見てみましょう。仮に現在建替えを行っている加悦中学校を統合中学校とした場合は以下ようになります。通学距離は単純に直線距離で計測している参考数値です。



一方で江陽中学校に統合する場合は以下ようになります。



加悦中学校に統合した場合は、新たに加わる野田川地域の遠い地区でも、従来の奥滝よりも距離がさほどかわらないことから、（交通上の安全性は考慮していません）距離的には通学圏内にあるかと思われます。位置も校区のほぼ中央にあると言えます。

一方で、江陽中学校に統合した場合は、新たに加わる加悦地域の遠い地区、例えば奥滝などは 10 km を越える距離になります。

このように加悦中学校と江陽中学校の統合について、物理的な面での可能性を見てきましたが、現時点で生徒数が増加する要素がないことから、江陽中学校の校舎が耐用年数を迎える平成 48 年（21 年後）までに方針を決めることになると思います。

加悦中学校の建替えにより、中学校の老朽化による建替えのタイミングが小学校より先延ばしになったことから、小学校再編を決定してから、中学校の再編の方針も検討することができます。